

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.203

2022. 9. 2

発行：平和憲法・9条をまもる

岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

「憲法改悪を許さない全国署名」計5,305筆（～8月末）

封筒付署名地域配布返送分、292通・1,104筆が含まれています

戦争も核兵器も二度と繰り返してはいけない！ 思いをあらたに 【原水爆禁止 2022 世界大会】

広島と長崎への原爆投下から77年。あの悲惨な出来事が二度と起こさないために、伝え続けていかなければいけません。8月に原水爆禁止世界大会が開催され、若い世代を中心に日本各地から参加がありました。原爆被害の実相を肌で感じ、戦争も核兵器使用も絶対にしてはいけないという思いをあらたに感じた3日間でした。

○今後の平和についての活動に活かしていきたい



8月4日～6日、3年ぶりに広島県で開催されました。岩手県からは14名が現地参加。初参加のメンバーが多く、緊張しながらの参加となりました。

1日目の開会総会では、広島被爆者で日本原水爆被害者団体協議会代表委員の箕牧智之さんが、来賓挨拶。箕牧さんのスピーチはリアルに想像できる内容で、今まで学校で学習したものとはほど遠いものでした。原爆から生き延びても、原爆症に悩まされる日々について語られ、参加したメンバーは食い入る様に熱心に聴きました。原爆により、その後の人生をも大きく左右するということを改めて学ぶ事ができました。

2日目まで、国際会議が行われました。世界各国から有識者の意見を聴く機会はなかなかないため、貴重な機会となりました。特に印象的だったのが、日本原水爆被害者団体協議会事務局次長の児玉三智子さんの体験談。幼いころに被爆し、原爆症に悩まされた家族も次々に亡くなるという話でした。77年前の8月6日、原爆によって街の様子は一変。飛び出た臓器を抱える人、垂れ下がった眼球を支えている人等、被爆時の写真を交えての話で、改めて原爆の恐ろしさを考える機会となりました。

国際会議では他に韓国、ウクライナ、ロシア、アメリカ、イギリス等、各国からオンラインや現地参加があり、それぞれの考え、取り組みについて意見が交わされました。

最終日は、ヒロシマデー集会が行われ、「核兵器のない世界に向けて行動を」と題して、各国の海外代表から発言がありました。次に「黒い雨トーク」があり、広島経済大学学生から発表がありました。原爆投下後に降ってきた、いわゆる「黒い雨」被爆者に焦点をあて取材していて。被爆者は表面上に見える被害は少ないが、公表することで自分や家族が差別を受けるのではないかと感じていたそうです。取材を通して被爆者と心を通わせる様子、裁判での勝訴の映像に感銘を受けました。（岩手県医療局労働組合 佐々木 伸也）

○核兵器の非人道性を訴え広げていきたい

8月4日から6日にかけて開催された「原水爆禁止 2022 年世界大会」に初めて参加しました。大会では、世界中で核兵器廃絶の声を上げているにもかかわらず、約1万3千発もの核兵器が現在もあり、ロシアのウクライナ侵攻によって核兵器使用の緊張感が高まっている事が衝撃的だった。

4日には原爆資料館を見学し、被爆当時のまま残された被爆者の遺品や、被爆者の悲惨さを伝える写真や絵画など多くの展示品を通じて、核兵器の非人道性や、当時の凄惨な様子を肌で感じる事ができ、改めて核兵器廃絶の意義を再確認した。

今回、実際に資料館を見学し、被爆者の声を聴けた事は、生涯において貴重な経験となった。今後は微力ではあるが、現地で経験した事を多くの世代に発信していきたい。



送り出して頂いた方々へ、
広島から、お礼とともに、改めて反核平和を訴えるハガキをお送りしました。

（久慈市職労 大澤 翔）

「ピース in 矢巾 夢・まつり」開催しました

—矢巾九条の会—

8月7日に、「第14回ピース in 矢巾夢・まつり」を3年ぶりに29名の参加で開催しました。

最初に世話人代表あいさつと戦没者への黙とう後、会員の協力の元、町内に3か所目の大看板設置(横断幕も)できたことの報告がありました。続いて平和の歌「折り鶴」「一本の鉛筆」などの弾き語りがあり、会場内は感動でいっぱいになりました。



次に、平和憲法9条をまもる岩手の会事務局・吉田敏恵氏の「平和憲法を持つ日本がすべきこと～私たちがすべきこと」の講演会を実施。国民投票の問題点や自民党のめざす国の形が話されました。また、どうやって平和を作っていくのかでは、「若者のだれもが知っているSDGsの前文と日本国憲法前文は似ている。日本国憲法を活かすことがSDGs達成の近道であることを若者との共通話題にすることが大事」と訴えました。最後に、参加者から「戦争は人殺し。平和憲法は2,000万人の戦争で亡くなった人たちが作っておいてくれたもの。憲法9条を理解すること。平和憲法を守るために頑張ろう」の言葉で締めくくりました。「憲法を正しく理解し『世界の人類の宝9条』を永久に維持することが必須と感じた」などの感想も寄せられました。(高橋秀子)



コラム — 東シナ海でも“戦争挑発”するアメリカ! —

ロシアのウクライナ侵略に対し国際社会から厳しい批判が上がっている最中、7月26日次のような報道がされておりました。コラム子は日本国民から軽く受け止められていないだろうかと懸念しております。杞憂かな…

「東シナ海で米軍機大量飛行—6月下旬 中国への圧力強化」

米軍が東シナ海で6月下旬から約1週間にわたり、大量の戦闘機(2機編隊とか7~8個編隊)を飛行させ、一部は日中中間線を越えて中国本土に接近していたことが25日、複数の日本政府関係者などへの取材で分かった。

中国軍機も戦闘機の飛行で対抗し、米軍に対し「挑発すれば反撃に遭う」と警告した。日本にも米軍から事前通告があった。航空自衛隊の戦闘機は参加せず、周辺で空中警戒管制機(AWACS)やE2C早期警戒機が警戒監視に当たった。…バイデン米大統領は、中国の習近平国家主席と近日中に会談する見通しだと明らかにしており、衝突回避策も議題になるとみられる。…

ここには米側が機会を見て“中国包囲網の構築”の観点から作戦実行、“挑発”していることや、対する中国側からの警告が発せられていることがはっきり見えます。すなわち中国は経済と国力の発展につれて、“列強”に対して“服従する”のではなく、その国益を主張するようになっていることを日本国民は知る必要があると思います。

国際政治で大事なことは国際連合の下では、ある国がある国を経済的にも軍事的にも「包囲する権限」を国際連合から与えられてはいないことであります。そしてアメリカに求められることは貿易問題、経済問題、軍事問題、平和問題であれ、国際連合で議論することです。国際連合無視の単独の先制軍事攻撃や単独の経済制裁や、アメリカ“主導”の行動をアメリカはやめるべきであります。

なお、8月2日から3日、アメリカ連邦議会下院議長ペロシ氏が、電撃的にポツダム宣言に基づき中国に返還され、中国の領土である台湾に正式の外交手続きも取らずに台湾を訪問し、中華人民共和国政府からひどく不興をかったことを日本国民は米軍のこの軍事演習と関連付けてしっかり記憶しておくことが必要ではないでしょうか(T)

「9月の街宣署名行動」9日(金)12:15~12:45 盛岡市大通・野村証券前

「憲法改悪を許さない全国署名」を呼びかけ、人との距離を保って宣伝を中心に行います。
ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。